

平成30年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	130	水と緑を活かした、美しい景観をつくる
施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる
施策の目標	魅力的な水辺空間や緑豊かな公園が、区民や来街者にうるおいとやすらぎをもたらし、にぎわうとともに、まちの至るところに緑が増え、水と緑を親しむまちになっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	緑被率 (※緑と生物の現況調査10.5% (平成21年度) に、開発指導要綱等の緑化指導による増加分を含めた推計値。)									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					12.2%					13.0%
実績	11.4%※	-								
指標名	「墨田区の公園や水辺を日常的に利用している」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					50.0%					60.0%
実績	43.8%	-								

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
一定規模以上の建設事業に対する開発指導要綱等に基づく指導により、緑被率は徐々に増加している。しかし、本区は住宅等が密集しているため、緑化に適した場所が限られており、緑地の整備は進みにくいことから、大幅な緑被率の向上は難しい状況である。今後は、緑被率の向上を進めながら、まちなか緑化(緑と花のまちづくり推進地域制度)や立体緑化(屋上緑化・壁面緑化)を推進して、生活の中で緑を身近に感じる「緑感」を、区民・事業者・区の協働により高めていく。区は区有地や公共施設・学校における緑化を率先して行うとともに、区施設の既存屋上緑化等について、良好な緑地を維持する必要がある。	H28	18,005
	H29	25,112
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	緑被率は、民間建築物に対する指導等により少しずつ増加している。また、緑感が向上してきたことで、緑の豊かさを感じる割合(住民意識調査結果)が増えている。

4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
○		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
墨田区の緑被率は23区でも下位であるが、うるおいあふれる環境にやさしく暮らしやすいまちづくりを実現するため、現在の緑化施策を継続して実施していく必要がある。		
【今後の具体的な方針】		
多くの人の目に留まる場所に、まちなか緑化(緑と花のまちづくり推進地域制度)事業実施地域を増やすとともに、公共施設に壁面緑化を導入することで緑感を提供する。また、区施設の既存屋上緑化等の継続的な点検及び維持補修計画に基づく保守を行い良好な緑地を維持する。また、より多くの区民の参加を得て、緑化拡大を目指していく。		

平成30年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	公共施設・民間建築物の屋上等緑化推進事業					1		
事業概要	平成13年度 庁舎屋上緑化見本コーナー開設 (庁舎工事に伴い、平成26年7月から一時閉鎖中) 平成15年度 屋上等緑化整備に対する補助事業開始 平成15年度 開発指導要綱に基づく屋上緑化指導開始 平成20年度 集合住宅条例に基づく屋上緑化指導開始 大規模開発時や集合住宅の建設時に屋上緑化の設置を指導している。					主管課・係(担当)		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	緑被率の向上及びヒートアイランド現象の緩和を図る。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	地上部に緑地の設置が難しい本区の土地利用の現状で、屋上緑化の設置は有効な緑化推進策であることから、区民の関心は高い。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	区内は建物が密集して地上部の緑地を増やすことは難しく、緑被率を高めるために屋上緑化を推進していく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	屋上緑化助成件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2	37	目 標	2	2	2	
				実 績	0	0		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	2	2	2	2	2
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	民有地の屋上緑化推進のために屋上緑化助成制度を実施している。建物の構造上の問題や、区民の自己負担に係る設置費用が高額であることから、年度ごとに確定的な増加目標を設定しにくい。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	助成による屋上緑化面積(平成15年度からの累計)				単 位	㎡
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
2,516		37	目 標	2,276	2,306	2,336		
			実 績	2,246	2,246			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	2,366	2,396	2,426	2,456	2,486	
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
各年度の申請数に差異があるため、過去の実績からの増加率を推計し目標値とする。								
財 政 面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	39	3,435						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 増加傾向				

1 必要性・妥当性													
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	ない												
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり												
判断理由													
条例等に基づく義務的な緑地整備も行われているが、地上部の緑地を増やすことは容易ではない。緑被率を高めるためには、民間建築物の屋上緑化の推進は必要である。													
2 有効性・適格性		<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要性 妥当性</th> <th>有効性 適格性</th> <th>効率的 経済性</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	4	4	5	4
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
4	4					5	4						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしていない												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある												
判断理由													
屋上緑化は、ヒートアイランド現象の緩和や緑被率の向上等、環境区宣言に合致し、環境に配慮した人と緑の共存をめざす緑化施策である。													
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">改善・見直しの上継続</p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない												
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある												
判断理由													
要件や事務手続きの見直しを行い、利用促進を図る。													
中間・最終年度の講評	既存公共施設の屋上緑化について、良好な緑地を維持するため、点検を実施し点検結果に基づき、維持補修計画を策定した。また、本事業の有効性を周知するため区民対象の屋上緑化見学会を実施した。その結果、参加者から有効性や緑感を実感したとの評価を得た。												
今後の方向性	維持補修計画に基づき、計画的に維持補修を実施して、既存公共施設の屋上緑化を良好な状態に維持する。また、屋上緑化が都市部の緑化として有効なものであることを普及啓発し、区民の理解を深めていく。												

平成30年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑と花の学習園及び緑の救急隊運営、緑化推進PR事業					4		
事業概要	昭和47年「緑化宣言」、昭和56年に「緑と花の学習園」を開園し、積極的に緑化を推進している。環境フェアやすみだまつり等のイベントにて、緑化推進の啓発を実施している。					主管課・係(担当)		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	緑と花の学習園は、区民が緑(植物)について「見て・学び・相談できる」施設として、緑化相談や年間を通して講習会を実施している。園内に植えられている四季折々の植物によって、来園者にうるおいとやすらぎを与える空間が作られている。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	緑と花の学習園では、季節ごとのイベントを開催している。平成29年度には、さくらまつり(来園者543人)、みどりの日(来園者260人)、菊まつり(来園者754人)を開催した。区内において、植物を間近で観察することのできる数少ない貴重な施設でもあるため、必要性は十分にある。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
<p style="text-align: center;">緑と花の学習園を拠点に区内の緑化を推進している。他の事業とも連携して、緑化推進を行っていることから代替の可能性についてはないと考える。</p>								
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	緑化講習会等の参加者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,830	37	目標 実績	1,450 1,053	1,490	1,530	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	1,580	1,630	1,680	1,730	1,780	1,830
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学習園等での緑化講習会の開催や苗の配布により、緑化の推進・啓発を図り新たな緑(植物)を増やすことに繋がるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	緑と花の学習園来園者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		13,300	37	目標 実績	10,900 9,606	11,200	11,500	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		11,800	12,100	12,400	12,700	13,000	13,300	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
緑化相談を通じて既存の緑(植物)を適正に維持管理するための知識・手段を提供するため。また、新たに緑化を進める動機づけを行うため。								
財政面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	7,960	9,771						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 増加傾向				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
緑化ボランティア（緑と花のサポーター）の活動拠点として、また、区民が緑（植物）について「見て・学び・相談できる」緑化推進の拠点施設として必要である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
緑と花の学習園は、区民が緑（植物）について「見て・学び・相談できる」緑化事業の拠点として、地域に緑化事業を根づかせてきた。		4	4	5	4
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
園内の一部エリアについては、維持管理を緑と花のサポーター（緑化ボランティア）が行うことで、区民との連携を図るとともに、コスト削減に寄与している。					
中間・最終年度の講評	各種緑化啓発イベント、緑化講習会や緑化相談等に多くの参加を得た。また、緑と花のサポーター自ら園内の一部を維持管理する等して、区民との協働による効率性・経済性の向上を図っている。				
今後の方向性	緑被率・緑感の向上に向けて、本園を拠点としてソフト面を担う緑と花のサポーターの養成をさらに進めるとともに、より多くの区民の参加を得ながら緑化の諸施策をさらに推進していく。				

平成30年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	緑と花のサポーター制度					5		
事業概要	公募した「緑と花のサポーター」が「緑と花の学習園」を活動拠点として、「まちなか緑化」などの植物の手入れや、区が主催するイベント・緑化講習会にボランティアとして参加することで、区民の緑化に対する意識の向上、緑化に関心のある人のネットワークの拡大につなげていく。					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	「緑と花の学習園」や「まちなか緑化」など、緑を守り・育てる活動を通じて、うるおいと環境にやさしいまちづくりに寄与している。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	緑（植物）に関心のある区民が、ご自身の都合の良い時にボランティア活動を行いたい方は多くいる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	緑化の推進を行うにあたり、緑と花のサポーターの協力は不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	緑と花のサポーター登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		55	37	目標	50	50	50	
				実績	47	47		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	55	55	55	55	55	55
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	安定したサポーター活動を行うため、登録人数を指標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	緑と花のサポーター実働数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
40		37	目標	35	35	35		
			実績	31	30			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		40	40	40	40	40	40	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
ボランティア活動の継続を目指すため、活動状況（登録者のうち実際に活動（1回以上／年度）した人数）について把握する。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	272	265						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 現状維持				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
緑に関心のある方は多く、今後もボランティアの微増が見込まれる。区民と区が協働して緑化を推進する。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
緑と花のサポーターの活動を通じて、区民相互のコミュニケーションの推進が図られている。		4	4	5	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
緑全般に係わるボランティアは、緑と花のサポーターである。まちなか緑化事業等を通じて、区民にボランティアの楽しさ・大切さを伝えている。					
中間・最終年度の講評	ボランティアの高齢化が進んでいるが、新規ボランティアの募集を進めて、人材の継承を図った。また、研修会を実施して、緑化知識の向上や共有を図った。				
今後の方向性	新規ボランティアの募集を引き続き進め、人材の継承を図っていく。また、産学官で連携を取りながら、学生の協力を得て、ボランティアとの連携や活用方法について検討するなど、緑被率や緑感を高める施策を進めていく。				

平成30年度 事務事業評価シート

施策	132	水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる	部内優先順位					
事務事業	森林整備体験事業					7		
事業概要	目的：環境学習の推進（第二次すみだ環境の共創プラン基本目標） 対象：小学生以上 内容：植林体験・山の日イベント・間伐体験を通じて、森林の公益性を学ぶ 平成23年度 事業開始／栃木県鹿沼市 平成28年度「山の日イベント」開始					主管課・係（担当）		
						環境保全課 緑化推進担当		
						03-5608-6208		
施策への 関連性	森林整備作業（植林・間伐）を通じて、区内で生活する中で実感することのできない自然の役割について学び、緑や自然に対して親しみを感じてもらう。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	森林を会場として、親子で体験できる内容が多くあることから、多数の申し込みがある。しかし、比較的年齢の低い児童が、急遽病気等の理由で取消される場合がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	本事業は、友好交流・協力協定を結んだ鹿沼市や市内の林業事業者の協力を得て実施している。区民に対して緑や自然の大切さについて伝える環境学習の場を提供するため、区が主体となって取り組んでいく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	森林整備体験開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	37	目標	3	3	3	
				実績	3			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	3	3	3	3	3
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本事業が開催されることによって、普段経験することのない植林・間伐作業について体験することができ、緑や自然の役割について学ぶ機会となるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	森林整備体験参加者数（延べ）				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		45	37	目標	45	45	45	
			実績	43	41			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	45	45	45	45	45	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民が「みどり」の大切さ、地球温暖化防止等に対して、どの程度関心を持っているのか知ることができるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	413	275						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 現状維持				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
区民が森林整備活動を通じて「みどり」の大切さ、地球温暖化防止やヒートアイランド現象の緩和への効果を学ぶことができ、森林の教育的利用を推進することができるため公益性が高く、ニーズも多いことから必要性は高い。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由					
区内に森林地域がなく、恵まれた自然環境が少ないため、多くの区民が森林と触れ合う機会が少ない。本事業は、区民参加で、植林及び間伐、下草刈りにより、森林の恵みや森林の必要性、森林の働きなどについて理解を深めることができる機会を提供しているものであり、有効である。					
3 効率性・経済性					
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
本事業は、友好交流・協力協定都市である鹿沼市及び鹿沼市内の林業事業者の協力を得て実施するものであり、他の事業との統合は難しい。 事業経費については、材料費が若干増加したため28年度予算が増加しているものの、事業者等の協力により必要最低限の経費で実施しており、妥当と考える。また、星空観察会を同時に開催することにより効率化を図っている。		改善・見直しの上継続			
中間・最終年度の講評	区内では体験できない森林整備作業等を通して、森林の公益性や自然環境の重要性を学ぶ機会を提供した。				
今後の方向性	環境学習の機会を引き続き提供していく。多くの区民に体験していただき、その学習成果を生かせる仕組みを構築していく。				